

第1章 平成23年度の主な出来事

特集1 21' いいだ環境プラン第3次改訂を行いました

平成23年2月から平成24年3月にかけて、21' いいだ環境プランの第3次改訂が行われました。

1 第3次改訂の狙い

21' いいだ環境プラン第3次改訂は、第2次改訂版の対象期間(平成20年3月～平成24年3月)の満了に伴って行いました。

第2次改訂版の対象期間中には、環境政策を取り巻く状況の変化がありましたので、これらを今回の改訂に反映させるとともに、今回の改訂時期が第5次飯田市基本構想後期基本計画の策定時期と重なったことを受けて、次の3つの視点で改訂を行いました。

1 飯田市が平成20年度に「環境モデル都市」に選定されたこと、平成22年度の環境首都コンテストにおいて「明日の環境首都賞」を受賞したこと、東日本大震災等の影響により人々の意識が変化したことを、改訂内容に反映させました。

2 多様な主体による協働の重要性が高まっている状況を踏まえ、飯田市の環境政策の課題を地域・市民・事業者・行政が共有し、更なる協働を進めることができるプランとしました。

3 このプランの上位計画である第5次飯田市基本構想後期基本計画にうたわれるとおり、「環境」をすべての基本に置いて施策の目標を達成するため、このプランの進行管理は、第5次飯田市基本構想後期基本計画及び飯田市環境マネジメントシステム(飯田市役所 ISO 14001・南信州いいむす21 など)による進行管理と連動させて行います。

2 21' いいだ環境プラン第3次改訂版の概要

(1) 基本理念

21' いいだ環境プラン第3次改訂版は、飯田市環境基本条例第2条に定める基本理念に則り、環境政策を推進していきます。

(2) 目標年次と対象期間

目標年次：平成28年度(対象期間：平成24年4月～平成29年3月)

(3) 基本目標と行動理念

21' いいだ環境プラン第3次改訂版の基本目標は、第5次飯田市基本構想後期基本計画の政策に整合させ、第2次改訂版の4つの基本理念を達成に向けた行動理念として掲げます。

基本目標：「人の営みと自然・環境が調和したまちづくり」

行動理念：循環、共生、自主、個性

(4) 望ましい環境像

「空あかるく風にほやかなるまち、いいだ」

3 21' いいだ環境プラン第3次改訂版の構成

21' いいだ環境プラン第3次改訂版では、これまでの基本施策を引き継ぎつつ、各施策の下に施策の柱を設けました。施策とその柱の内容は以下の通りです。

施策1 社会の低炭素化の 推進	(1) 再生可能エネルギー導入促進による地域発展の仕組みづくり (2) 環境にやさしい交通社会の形成 (3) 省エネ・エコライフの普及啓発
施策2 緑の保全と創出	(1) 森林の持つ多面的な機能の保全 (2) 身近な緑や里山の保全と整備への取組み (3) 森の資源の利活用と搬出間伐の促進 (4) 河川美化の持続可能な仕組みづくり
施策3 廃棄物の減量と適 正処理	(1) リデュース(発生抑制)、リユース(再利用)の推進 (2) 適正な処理の推進 処理施設の適正管理と整備への協力
施策4 環境汚染の防止	(1) 環境汚染の防止
施策5 自然とのふれあい と環境学習の推進	(1) 子どもの環境学習を進める仕組み作り (2) 生涯学習としての環境学習を進める仕組みづくり
施策6 日常的な環境負荷 低減活動の展開	(1) 地域の産業による環境負荷低減活動の展開

施策の柱には、それぞれに目指す将来像、5年後の目標、手順、指標が設定されており、対応する事業を進める中で、その進行を図ります。

詳細については、21' いいだ環境プラン第3次改訂版をご覧ください。

飯田市ウェブサイト内サブサイトの「環境情報」からダウンロードできるほか、市内の図書館、図書室や行政資料コーナーで閲覧できます。

特集2 リニア時代にふさわしい環境モデル都市ロードマップを作成しました

1 リニア時代にふさわしい環境モデル都市ロードマップ

2030年度に向けてリニア時代にふさわしい観光モデル都市ロードマップを作成しました。

ここではその概要をご紹介します。

このロードマップは、環境モデル都市としてこれまで取り組んできたことを踏まえ、飯田市の多様な暮らしや風土にふさわしいエネルギーの域産域消の取り組みを中心に、リニア時代にふさわしい低炭素で活力ある環境モデル都市飯田を実現するための一つの道筋を示しました。

このロードマップを出発点に市民、事業者、行政などの多様な主体による議論と取り組みを進めていきます。

2 リニア時代にふさわしい環境モデル都市づくりロードマップ策定の4つの視点

このロードマップは、次の4つの視点を基に策定されました。

私たちがエネルギーを考える時代

- ・安心安全なエネルギーを求めることと、地域に適した再生可能エネルギーの利用を推進すること。
- ・エネルギー消費をできるだけ抑え、その使い方を変えていくこと。
- ・エネルギー問題への取り組みから、人々の価値観、ライフスタイルや社会経済活動の仕組みを変えていくこと。

人々や自然との絆を大切にす地域社会再生の時代

- ・人と人との絆や自然とのふれあいなどを大切にし、心の豊かさを大切にす時代背景を踏まえ、環境と経済の好循環の仕組みや知のネットワークを作り出すこと。
- ・この新しいネットワークでつながる地域の人々が、人々や自然との絆を大切にす地域社会を基盤として様々な取り組みを展開していくこと。

地域の多様な主体の協働

- ・多様な主体が結いの精神と先取の気風をもって、先進的な環境問題への取り組みを行ってきた実績を踏まえ、地域の多様な主体の協働で、これからの取り組みを進めていくこと。
- ・市の統合的アプローチの政策手法で、地域の多様な主体がそれぞれの力を発揮できる支援を行うこと。

美しく豊かな山・里・街の暮らしがある高付加価値都市圏の形成

- ・結いの精神や先取の気風を育み続けた山・里・街の多様な暮らしと風土を土台に、リニア時代にふさわしい世界にも通用する付加価値の高い都市圏の形成を目指した取り組みの道筋を立てること。

3 2030年までの目標

山・里・街の暮らしにふさわしいエネルギーの域産域消や地域全体での省エネの推進、エコライフを推進することで、リニア時代にふさわしい、魅力ある持続可能なまちづくりを目指します。

目標1 創エネ

温室効果ガス
15%削減

市内エネルギー需要の20%を再エネで賄います

目標2 省エネ

温室効果ガス
10%削減

市内エネルギー需要の10%を省エネで賄います

目標3 交通

温室効果ガス
15%削減

市内の移動には環境にやさしい乗り物を活用します

重点プロジェクト1

地域エネルギービジネスをコーディネートするプラットフォーム組織を構築

- ・市場からの資金調達によって民間ビジネスとして運営する機能の構築
- ・民間事業を成立させる市の政策的支援手法の構築

※以下のプロジェクトのベースとなるプロジェクト

創エネによるエネルギー転換

・重点プロジェクト2

おひさまのエネルギーによる域産域消の推進

- ・住宅用太陽光発電設置の推進
- ・業務用太陽光発電設置の推進(事業所・公共施設・コミュニティ等)
- ・太陽光エネルギーの面的利用(メガソーラー等)

・重点プロジェクト3

もりのエネルギーによる域産域消の推進

- ・木質バイオマスエネルギー資源の確保から流通までの体制構築
- ・民生部門での木質バイオマスエネルギー通年需要の創出
- ・地域産材を活用した住宅、建築物での省エネ推進

・重点プロジェクト4

市民参加型の小水力発電事業

- ・中山間地における電力供給自立型発電事業の推進
- ・マイクロ小水力によるコミュニティ発電の推進
- ・マイクロ小水力による自家用消費電力供給の推進

省エネによるエネルギー需要の抑制

・重点プロジェクト5

産業・民生部門での省エネ推進

- ・タウンエネルギーシステムによるエネルギー利用抑制
- ・地域版省エネ建築・改修ガイドラインの活用による建築物の省エネ化
- ・地域ぐるみ環境ISO研究会の先導的な省エネ事業の全域展開

移動手段の低炭素化

・重点プロジェクト6

次世代移動手段等を活用したライフスタイルの低炭素化

- ・山・里・街の暮らしにふさわしい次世代自動車の普及とインフラ整備
- ・市民共同による自転車利用の推進
- ・公共交通機関の充実と利便性の向上

このロードマップをベースに持続可能な社会への道筋を考えて行きましょう！！

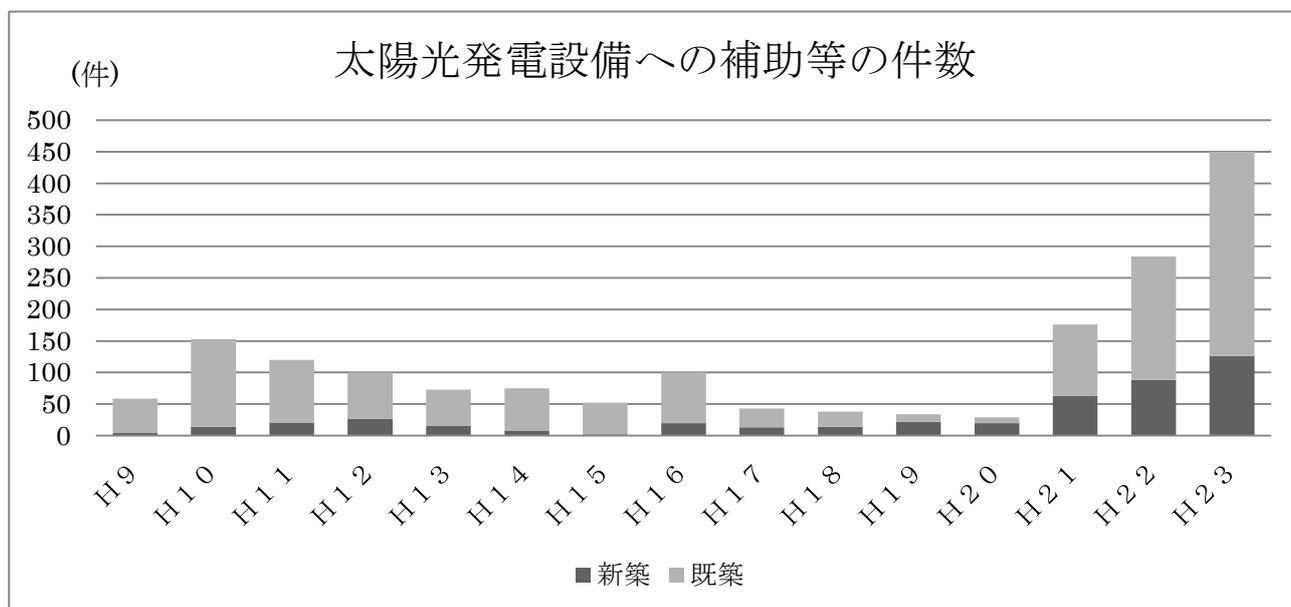
特集3 太陽光発電の普及が進んでいます

1 太陽光発電設備への補助等の件数

飯田市では、平成9年度より太陽光発電設備への利子補給事業を開始しました。平成16年度には、制度を補助へと変更し、その後、補助制度を見直しながら、太陽光発電設備の普及を目指した取組みを続けています。

下のグラフを見ていただくと、平成21年度に余剰電力買取制度が導入されて以降、太陽光発電設備への補助件数は大幅に増加していることが分かります。

平成23年度には、単年で飯田市の全世帯の1.2%に当たる450世帯へと太陽光発電がついています。これまでの利子補給と補助の件数を合わせると、1,786件となります。これは、飯田市の全世帯の4.7%に当たります。



2 太陽光発電設備設置件数とその効果

上記の数値は、補助等の件数ですが、実際にはどのくらいの太陽光発電設備が市内にあるのでしょうか。中部電力株式会社にご提供いただいたデータによると、飯田市内にある太陽光発電設備は、もっと多く2,243件の太陽光発電設備があります。その設備容量は、約9メガもあるとのことです。

これらの太陽光発電設備は、飯田市の平均的な条件で発電し、平均的な家庭の消費電力を賄うと考えると、約7.7%の世帯が賄える計算となります。そして、毎年5,128t-CO₂もの温室効果ガスを削減してくれています。

	H22	H23
太陽光発電設備設置数	1,728	2,243
太陽光発電設備容量(百 kw)	67	90
太陽光発電で賄える世帯数	2,166	2,909
上記世帯数が飯田市世帯数に占める割合	5.7%	7.7%
太陽光発電による年間温室効果ガス削減量(t-CO ₂)	3,486	5,128

※中部電力株式会社提供

3 地区別の設置件数

市内で太陽光発電設備の設置が多いのはどこでしょうか？

下の表は、補助等の件数を基に作成したのですが、飯田市内での設置件数はこのようになっています。

全体として、世帯数の多い地区に設置されている傾向がありますが、竜丘地区のように世帯数以上に多く設置している地域もあります。

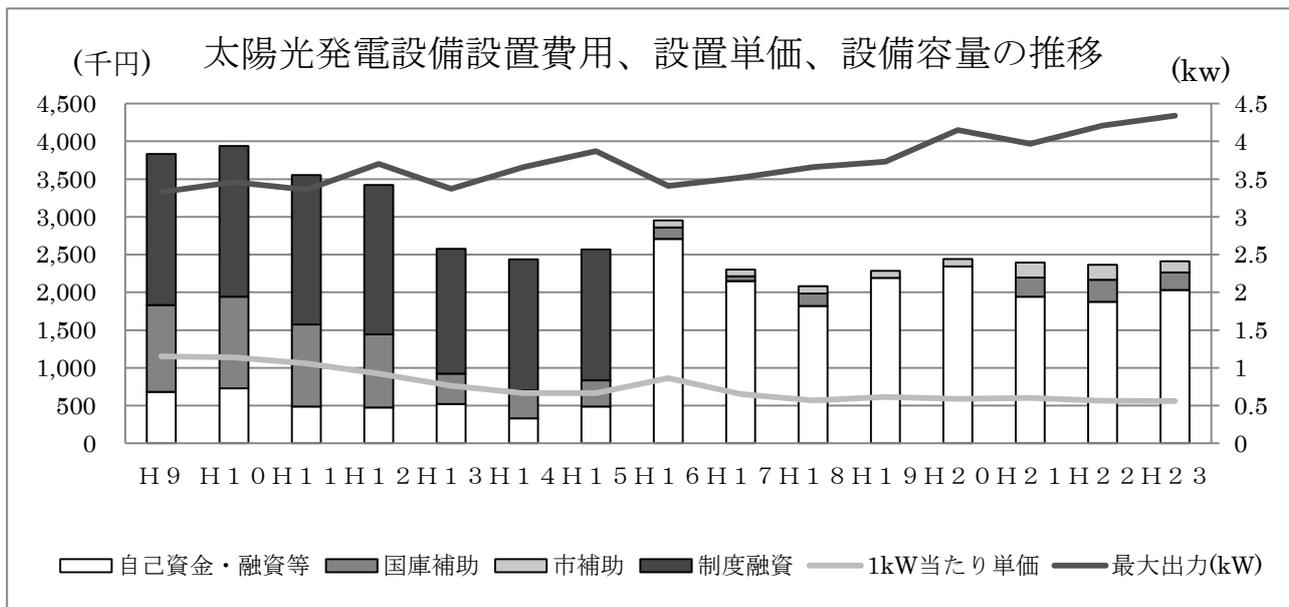
上村地区は、多くの家が急峻な谷間に立地しており、太陽光発電設備の設置数は少ないですが、急峻な谷は小水力発電には、向いていますし、森の資源も豊富にあります。

この様に地区により、利用が進むエネルギーが違ってくるのが自然エネルギーの特徴になっています。

地区名	橋北	橋南	羽場	丸山	東野	座光寺	松尾	下久堅	上久堅	千代
設置件数	21	36	65	42	35	96	180	50	24	31
地区名	龍江	竜丘	川路	三穂	山本	伊賀良	鼎	上郷	上村	南信濃
設置件数	83	183	58	34	89	310	239	203	0	7

4 太陽光発電の設置費用やサイズについて

下のグラフは、補助等のデータを基に作成した平均的な太陽光発電設置の姿です。



太陽光発電の設置費用は、平成9年頃には383万円かかっていたのが、平成23年には、241万円まで低下しているのがわかります。

また、平成9年には1kW当たりで115万円だった設置費用は平成23年には、56万円と約半分になっています。これにより、平成9年には、3.33kW程度のものが一般的であったの設備は、平成23年には、4.34kW程度まで大きくなっています。

徐々に身近なものになりつつある太陽光発電。その更なる普及を目指し飯田市は取組みを続けています。